

第2回秋田県心身障害者コロニーあり方検討会の議事概要

○日時 令和5年7月10日（月） 13:30～15:40

○場所 秋田県議会棟大会議室

○出席者 委員12名、事務局（県、秋田県社会福祉事業団）

○議事

議事①障害福祉制度と介護保険制度について

※意見なし

議事②今後の方向性の議論に向けた意見交換について

※「Iコロニーに役割、求められる機能」について意見交換を行った。

- ・次の50年を見据えて、コンパクトに規模を縮小していくべき。経営面から見ても、規模が大きすぎるため維持するだけでも大変である。立地について、現在地は福祉施設には合わない。立地条件のよい場所に移転して、100人程度の適正規模にすべき。
- ・コロニーには県内の他施設を指導してほしい。指導・相談機能や研修機能を有する施設にしてほしい。重度障害、強度行動障害にも対応可能な施設がよい。他の民間施設では難しい役割を担う特色ある施設とすることで、県が関わる意義が生まれる。
- ・現地視察では、施設の老朽化が非常に進行しており、入所者の高齢化、医療面で大変厳しい状況だと感じた。グループホームでは重度化・高齢化した入所者に対し介護や医療面で対応するのは難しいと思う。新たなコロニーは、大規模ではない施設を現在地以外に整備するのがよい。培ってきた知識を生かし他の民間施設を指導してほしい。また、強度行動障害支援施設は秋田市あたりがよいのではないか。
- ・今後はもう少し小規模な施設としていく必要があると思う。また、専門的・指導的な立場として位置づけてもらいたい。例えば、札幌市が独自に行っているパーソナルアシスタンス制度等への要望は今後出てくると思われることから、新たなコロニーにはそうした先進的福祉サービスを秋田から発信できるような施設になってほしい。
- ・コロニーの待機者に比べ、地域の施設にはより多くの待機者がいる。しかしそうしたニーズに応じてコロニーを地域に分散させるという単純な話では無いと思う。職員の問題もある。地域の相談支援者から話を聞き、地域の実情を把握する必要がある。
- ・現在のコロニーに診療所があるのは素晴らしいことだと思う。診療所機能を残せば理想的であるが、診療所だけで医療を担うのは厳しい。中等症または重症患者については、地域の医療機関へのアクセスや連携がスムーズである方がよい。現在地では冬場に救急車を呼ぶのも大変であり、立地は市街地に近い場所がよい。また、災害時の避難所機能は今後も必要と考える。
- ・重度障害者の緊急入所は、特別養護老人ホームと連携して受け入れを行ってはどうか。
- ・現地視察の時に、コロニーに入所している強度行動障害者が非常に安定しているのを見て衝撃を受けた。外からの刺激が無い環境がよいのだと思うが、知的障害、身体障害の方と一緒に一般の施設では強度行動障害に特化した対応は難しい。今後は、ハード面を整備した専門的な施設が必要であることを改めて感じた。

- ・医療機関、介護施設、高齢者施設をうまく組み合わせ、切れ目なく障害者福祉サービスから介護に繋がる施設の方が、利用者にとっても職員にとってもよいと思う。
- ・障害者支援施設以外に特別養護老人ホームで対応できる場合はそちらへ繋がって行くようなサービス（仕組み）があればよいと思う。また、各地域や圏域ごとに対応できれば保護者・ご家族は安心できるのではないか。
- ・強度行動障害の方が特別養護老人ホームに入所する事がある。特別養護老人ホームと障害者支援施設が連携することは可能だと考えている。
- ・医療法人が医療連携を始めたように、社会福祉法人でもそういったことが必要になってきたのではないかと思う。法人の運営を維持していくためにも“地域の福祉協同ネットワークの構築”は理念ではなく実際に動いていかないといけない。

議事③入所者及びご家族アンケートの修正について

- ・介護施設に移る場合も地域移行として考えることはできると思う。地域のグループホームやアパート等に移るということだけをイメージするのは違うのではないか。介護施設に移るといような選択肢を家族に示すことも必要ではないかと思う。
- ・将来介護施設に行きたいか、と聞くのはコロニーで対応するのが限界と受け取られる恐れがある。聞くのであれば十分に説明しないと保護者は心配する。また、各地域で入所定員をしっかりと確保できるのであれば、地域で対応可能な入所者もいると思う。
- ・保護者会はとても大事。繰り返し丁寧に説明・報告をして理解を得る必要がある。

○その他

事務局より、次回検討会の開催日程について説明を行った。

次回検討会は、「Ⅱ地域生活への移行の進め方等」について意見交換を行うこととした。